

稲作情報 第5号



JA と な み 野 HP

令和 5 年 6 月 2 3 日
JA と な み 野 米 作 改 良 対 策 本 部
と な み 野 農 業 協 同 組 合
砺 波 農 林 振 興 セ ン タ ー

『てんたかく 81』の生育は、茎数が平年より多く、葉令の展開はやや早くなっています。幼穂形成期は、6/24～26頃と予想されます。

『コシヒカリ(5月中旬植)』では、茎数は平年よりやや少なくなっていますが、今後、急激な増加が見込まれます。葉令の展開はほぼ平年並みとなっています。

品種	年	調査数	田植日	6月19日・となみ野管内調査結果					幼穂形成期 (幼穂長 2mm)
				草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m ²)	葉令 (枚)	葉色	
てんたかく 81	5年	4	5/1	50.9	30.9	659	10.9	4.6	予想(6/24～26頃)
	前年	4	4/30	43.5	27.5	562	10.7	4.5	6/24
	平年	-	4/30	49.5	29.5	609	10.7	4.6	6/25
コシヒカリ	5年	12	5/14	39.5	21.7	424	9.2	4.3	予想(7/10頃)
	前年	12	5/13	39.1	21.4	429	9.3	4.4	7/7
	平年	-	5/13	41.9	22.6	462	9.3	4.4	7/9

1. 「てんたかく 81」の穂肥は、適切に施用 【 営農日誌 P29～32、77 参照 】

【 分施ほ場の場合 】 追肥3号 (15-3-15) による標準施用量

品種	土壌	1回目の施用	2回目の施用	注意点
		幼穂長 2mm(幼穂形成期)	(1回目から9～10日後)	
		6月26日頃	7月5～6日頃	※施用時期は5/1日頃の田植えを想定
てんたかく 81	浅い田	12kg/10a	13kg/10a	※葉色が濃く(4.6以上)、茎数が多い(550本/m ² 以上)場合は、時期を遅らせるか、施用量を減らしましょう。
	普通田	10kg/10a	12kg/10a	
	深い田	10kg/10a	10kg/10a	

※生育はほ場によって異なるので、幼穂長は必ず確認してください。

【 肥効調節型基肥(Jコート早生専用)施用ほ場の場合 】

原則、追肥は不要ですが、幼穂形成期頃の葉色が4.0を下回る場合は、ご相談ください。また、出穂7日前頃に、葉色が4.0(砂壌土4.2)以下と淡い場合は、出穂3日前までに7kg/10a(窒素成分で1kg/10a)以内の追肥を行いましょう。

2. 中間追肥の積極的施用 【 営農日誌 P76 参照 】

・稲体の充実を図り、不足しているけい酸や加里を補うため、中間追肥を行いましょう。

対象品種	資材名	散布量	散布時期	備考
コシヒカリ	けい酸加里 プレミア 34	20 kg/10a	6月下旬頃	浅水(ヒタヒタ水)状態で散布



3. 中干し後は、『間断かん水』で根の伸長を図りましょう 【 営農日誌 P76 参照 】

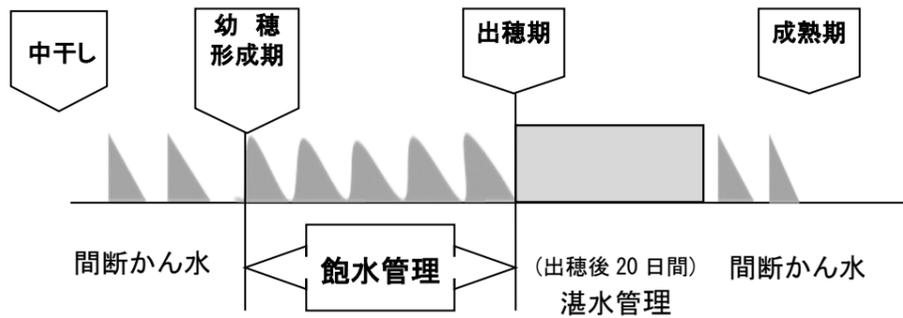
6月中旬～7月中旬頃の水管理について

<てんたかく81> 幼穂形成期以降は、**飽水管理** に切り替えましょう。

<コシヒカリ・富富富・晩生品種など> 幼穂形成期までは間断かん水が基本です。

注1：中干しが不十分な場合は、落水期間を長くして、干し気味の管理を行いましょ。

注2：植え傷み等で、茎数が少ないほ場は、徐々に干しあげましょう。



中干しをしていない方は
早急に行ってください！

【 間断かん水の目安 】

乾きやすいほ場：1～2日湛水 ⇔ 2～3日落水

乾きにくいほ場：1～2日湛水 ⇔ 3～4日落水

※特に乾きにくいほ場や、葉色が濃いほ場は、落水期間を長くする。

【 飽水管理の目安 】

足跡に水が残る程度に減ったら入水
(ほ場が常に湿っている状態を維持する)

4. 畦畔等の除草を徹底し、カメムシの発生しにくい環境づくり 【 営農日誌 P78 参照 】

「水田畦畔等の草刈り運動」

運動期間：7月1日～10日

一斉草刈り日：7月1日～2日

< 草刈りのポイント >

- ・ 稲の出穂直前や出穂後に草刈りを行うと、カメムシ類を水田内に追い込むことになるため、7月10日頃までに畦畔等の草刈りは終わらしましょう。
- ・ 畦畔や雑草地は、できるだけ雑草の穂が出ないように、こまめに草刈りを行いましょ。
- ・ 稲の出穂期近くに畦畔除草剤を散布すると、着色米の原因となる菌が発生するので、畦畔に除草剤を使用する場合は、稲の出穂1ヶ月前までとしてください。

< 雑草地等の発生密度調査 (R5.6.21) >

管内畦畔や雑草地では斑点米を発生させるカメムシが平年以上に確認されています。

(砺波市確認地点率 94.3%)

(福野井波地域確認地点率 84.2%)

5. < 麦跡「地力増進作物」の作付け推進 > 【 営農日誌 P110 参照 】

- ・ 麦跡の不作付地は雑草が繁茂し、「斑点米カメムシの繁殖地」となるとともに、地力も減耗します。
- ・ クロタラリア等の地力増進作物を作付けし、雑草の発生を抑制するとともに、土づくりを行いましょ。
- ・ 地力増進作物を栽培することで、翌年の水稻での基肥チツソを2割程度減肥が可能となります。

夏播き品目	播種時期	播種量(/10a)	基肥量(/10a)	備考
クロタラリア	6月～7月	5～9 kg	なし	・ 苗立ちを確保するためには、排水対策が重要です。 ・ すき込みが遅くなると株元から硬くなり、作業が困難になるので注意してください。
ソルゴー	6月～7月	4～6 kg	基肥30号:40kg	

※ 大麦跡に作付する地力増進作物(当年度の二毛作が対象)について、助成金が交付されます。
年度内の地力増進作物のみの作付は対象外です。詳しくはご相談ください。

【 お問い合わせ 】

砺波農林振興センター	農業普及課 砺波班	32-8113		
となみ野農業協同組合	経済部 生産企画課	32-8619	資材配送センター:あぐり館	32-5440
	稲種センター	82-0117	農業機械センター	58-5520